

報道最前線から故郷の校長に (2)

NHKラジオ
明日への言葉
2012年8月22日

山形・朝日町立大谷小学校 校長 長岡 昇

長岡 昇

1953年、山形県朝日町生まれ。現在59歳。1977年東芝入社。78年朝日新聞社入社。静岡支局、横浜支局、北海道報道部などを配属後、ニューデリ支局長、外報部次長、ジャカルタ支局長、2001年・論説委員、フォーラム担当部長を歴任。

担当のアジア情勢の社説を書くため、気候の激しいインドネシアやアフガンを取材するうち水と緑に富んだ日本の農村の豊かさを痛感した。一方、古里に荒れた田畑が広がり、母(84歳)の守っていた畑が数少ない農作地だった。『ひどいことになってる』何とかしたいとの思いを募らせていた時、校長の公募を知った。

次の社会を作る教育の仕事に、記者との共通点を感じた。『生活を壊したくない』とないて嫌がる妻をなだめ、半年間、説得した。2009年1月に56歳で早期退職。民間人校長として同年4月から故郷の朝日町大谷小学校校長。



元朝日記者の民間校長(59歳)が出版
「未来を生きるための教育」

朝日町大谷小学校

〒990-1304
山形県西村山郡朝日町
大字大谷1147



2009年4月より校長の仕事 시작했다。自分の子供の頃は大半が専業農家だったので農作業を手伝わされたのを記憶しているが、最近の子供は殆どが畑仕事をしたことがない。

英語の授業も盛んで米国人のネイティブスピーカーを雇っている。小学生から生の英語を聞いている。今後、子供達が世界を見つめるうえで良いことだと思っている。

学校便りは月2回、発行。このあたりは三世代同居が多く父兄、祖父母の方々にも子供達の様子が伝わるようにしている。生徒の写真、作品、カヌーを楽しむ会のような催し物の内容等を記載して配布。

他の小学校と交流している。海の子・山の子交流。宮城県の学校との交流では名前付のリンゴをプレゼントし、喜ばれた。芋煮会も好評だった。

前から続いていたことだが、プルトップを集めて、車イスをプレゼントしている。プルトップがお金代わり・・・

学校の畑では除草剤を使わずに草を抜いている。農業は雑草との戦いで、汗をかけた草取りが大切なステップ。

地域を元気にしたい！の思いで、町の売りを考えた。一つは朝日連峰、もう一つは最上川。最上川はだれでも知っている。「最上川のカヌーでの長距離下り」を考えた。2012年夏、参加者合計22名。一泊二日の50kmカヌーでの川下りを始めて実施した。参加者には大変喜んでもらった。北海道では150km以上のカヌーツアーがあるそうで最上川のカヌーツアーは日本で三番目に長いカヌー下りになりそうだ・・・

自分は専業農家の息子だった。今は専業農家は6軒、リンゴ・野菜・・・農家が大半。山の畑は荒れに荒れている。来年、60才で校長を退職したら、農業をサポートしたい。現在、有機農業の勉強会に入って活動している。

農業は始めに500万円から1000万円が必要と言われる。若者がこんな大金は持っていない。最近、農水省で、初めて農業に参入したい人をサポートする仕組みが出来た。田畑、山林はいくらでもあるが使われておらずもったいない。

小学校の6年間は人間の基礎作りの非常に大切な時期だと考えている。

学校は60才定年ですので、ここに住みながら働ける次の職を探そうと思っている。

教育が大事にされていない・・・と思った。その象徴はパソコン。全国で先生に62%しかパソコンが支給されていない。この低さには驚いた。先生は二級公務員・・・？先生は自費でパソコンを持ち込んでいる。パソコンも与えられず教育を大事にしている・・・なんて、おかしい。

また、食は人間の根幹。基礎になるものですので学校給食には安全でおいしい物を提供できるようにしたい。

資金を投じて、子供達をしっかり育てなければ日本の未来はない。新聞記者はプロの野次馬！日本語の職人！と思っている。

本音で発言しているので、煙たがられることもある。教育村に新しい風をいれられたら・・・と思う。